

話題の新刊 おすすめの本

サザエさんをさがしてその2 朝日新聞be編集グループ



サザエさんの漫画を通して昭和を解説。平成になって20年。今、見たり聞いたりすることのおおもとが昭和にあるんだなあと感じる1冊。昭和の世相を4コマ漫画に納めた長谷川町子さんには、ただ脱帽。

川喜田半泥子 無茶の芸 千早 耿一郎、龍泉寺 由佳 作



東の魯山人、西の半泥子と謳われた陶芸界の異才・半泥子の芸術を紹介。広重の浮世絵にも登場する伊勢商人の川喜多家の跡取りとして生まれた半泥子は、堅実な経営者でありながら芸術にも秀でた才能を発揮した。

ぼくがラーメンをたべてるとき 長谷川 義史 作



地球には暑い国もあれば寒い国もあります。平和な所もあれば、戦争におびえながら暮らしている所もあります。遠くはなれた所で、今、なにがおこっているのか考えてみたくなる絵本です。

図書館へでかけよう。

【休館日】 1 / 1(祝) 2(水) 3(木) 7(月)
14(祝) 21(月) 28(月)

【月末整理】 31(木)

★おはなしキャラバン
12(土) 多久公民館 10時~11時



その他 おすすめの本

一般向き

- ◆ 育児児典 (毛利 子来、山田 真)
- ◆ 訳文万葉集 (森 淳司)
- ◆ 遊茶箱のなかの宝もの (鶴田 静)
- ◆ すべて王の臣 (ロバート・ベン・ウォーレン)
- ◆ お節句折り紙 (小林 一夫)

児童向き

- ◆ 納豆の大ドンブリ家族の短歌 (穂村 弘)
- ◆ 世界のなかで、ひとりといっぴき (高山 栄子)
- ◆ 地球タイムズ (あべ 弘士)
- ◆ 巣をつくるあなをほる (アンネ・メッラー)
- ◆ 多賀城焼けた瓦の謎 (石森 愛彦)

何気なく新聞のテレビ番組欄を見ていたら、「につぼんの現場」天国への引越し」と書かれた文字が目にとまりました。この題に興味を湧き、見ることにしました。

内容は、年間2千件を超える依頼があるといわれる、遺品整理専門会社の仕事を紹介されました。その会社は、亡くなった人々の遺品を回収し、遺族に返したり、供養して処分するのが主な仕事です。

実際、悲しみで遺品の整理をする余裕などないのが事実です。でも、人まかせにするのもどうかと思いますが、現代社会は核家族が増え、高齢化社会も加速して、ひとり住まいも多くなり仕方ないのかもしれない。

また、身寄りのない高齢者が増えているのも事実です。少子高齢化が急速に進んでいる現在、考えさせられる番組でした。これから、高齢化に向かう私たち世代に課せられた問題の一つのようでした。

野田陽子

《あるテレビ番組から考える》

人権教育 129

ともに生きる

市民文芸

《麦の芽短歌会 多久麦の芽五選》

いつからか木瓜酒つくるを知りしならむ
借家の庭にも木瓜の実太りて 栗原 瑛子

四十五年を没頭せしか
田淵ミチ子

世の中はどう変わろうかゆつくりと
見つけて行きたき吾の心境 福島那智子

急ぎ足で歩めば見逃すことあれど
ゆつくり歩めば見えてくるもの 川浪 信子

古代にも渡来人多くありしな
大相撲の人種入りみだれいる 尾形 節子

《あさみ俳句会 あさみ俳句会五選》

雑木山彩とりどりの紅葉かな 川内すみ子

父の背の温もり今も石路の花 光野 正子

白波の沖まり生れ冬の海 田中 惇子

サクサクと落葉踏み締む冬の朝 田代ひろ子

秋桜十万本の風の色 中嶋 清子

《多久川柳会 林口岳生選》

運が良い地球衝突せず廻る
借金のお恐ろしさに攻められる
迷い事解けず仏間を去り難い
今日のわたしを演じる朝の眉
衝突が怖い張り子の虎である

残月 嘉明 東子 まつこ 修